

第2回グループワークまとめ

資料5-1

1 グ ル ー プ	【計画の体系案】 大項目4を中心に話し合った。 ①「障害のある人」「障害のある子ども」と分けるのは違う。子どもから、高齢になるまでを一連とし、ワンストップでみて欲しい。 ②大項目4にも、家族支援に加えて、地域の理解・推進を加えて考え直して欲しい。 ③ワンストップ（なんでも相談窓口）みたいのが必要。まずは世間話や愚痴からスタートできるような窓口。国籍や生活水準や制度の問題などいろいろあるかもしれないがなんでも相談から入って、専門的なところにつなげる。潜在的なニーズを掘り起こして欲しい。
2 グ ル ー プ	【計画の体系案】 継続、多世代、安全、情報、制度の4つについて話し合った。 継 続：切れ目のないサービスをしっかり受給していく。重度化、高齢化に対応できるようなサービスや、施設整備に期待したい。 多世代：子どもから高齢者までまるごと理解し合えるような三鷹市 であること。地域ケアネットワークといった取り組みは強みでもあるので、しっかり推進していくのがよい。 安 全：サービスの谷間に落ちてしまわない・孤立化しない相談支援体制が必要。 情 報：IT化は進んでいるが、アクセスする方がなかなか進んでいない。「情報」について、障がい がある方が連絡をする上で困らない整備づくりが必要。
3 グ ル ー プ	【ビジョン】 「決定」強い。「選択」でも良いのでは。「能力」も強い。最大限「引き出し」も強い。誰が引き出してくれるのか。プレッシャーにならないような優しい言い方に。 【計画の体系案】 大項目2の（3）について、「正しい理解」は無理「理解」してもらう。 大項目3の（3）について、福祉サービスのしおりの抜本的見直し。カラーですてきなもの作ってほしい。外注でも良いと思う。 大項目4について、児童の社会参加にひとことあっても良いのでは。 大項目6について、人が足りていないもあるので、具体的に行っていただければと思う。

4 グ ル プ	【ビジョン】 ・資料5－1で、項目の入れ替えを行ったと聞いたが、ビジョンの順番を3を1にしても良いのでは。 ・「最大限引き出し」はつらい「発揮し」など文言を変えた方が良いのでは。 【計画の体系案】 ・大項目2の（3）について、「正しい理解」の「正しい」ではなく、一人一人の理解をして欲しい。 ・大項目5など社会参加の促進・推進が促進に変わっている。促進は、他者がひっぱる意味があるみたいなので、推進のほうが良いのでは。 ・福祉人材の確保はとても大事なのだが、ピアサポートの方を事業に入れて欲しく、大項目6を「福祉人材等」にしてはどうかという意見だ。
5 グ ル プ	【計画の体型案】 ・就労支援部会の共同受注の事務局機能について、具体的に何か取り組みを進めていくことができる言葉を計画に入れられないか。 ・雇用側への積極的な取組・・・大項目5（2）の②雇用側への積極的な働きかけの部分について、障がい者雇用をすることの実例やメリットを紹介するといった理解を促すような取り組みができると良い。商工会へのアプローチ。 ・市における就労体験の→就労機会の充実にできないか。短時間就労の促進は障がいだけでなく子育てなど ・インクルーシブ教育・・・教育との連携が必要

第三期三鷹市障がい者(児)計画のビジョンについて(修正後)

資料5-2

8月31日に行われた自立支援協議会でのご意見を踏まえ、ビジョンについて次のとおり修正しました。

【現行のビジョン】

- 1 だれもが住み慣れた地域で生涯にわたり安心して暮らしていけるまち
- 2 だれもが地域社会の中で個性を生かしつつ、社会の構成員として自立して生活できるまち
- 3 だれもが障がいの有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し支え合いながら共生できるまち



【修正後ビジョン(案)】

- 1 だれもが障がいの有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し支え合いながら共生できるまち
- 2 自らの意思が尊重され、だれもが住み慣れた地域で生涯にわたり安心して暮らしていけるまち
- 3 持てる能力を発揮し、だれもが地域社会の中で個性を生かしつつ、社会の構成員として自立して生活できるまち

【修正内容】

- ①施策体系に合わせて、ビジョン3の項目をビジョンの1へ変更。
- ②「自らの決定に基づき」を「自らの意思が尊重され、だれもが」に文言修正。
- ③「持てる能力を最大限に引き出し」を「持てる能力を発揮し」に文言修正。

【(参考) 前回提示したビジョン】

- 1 だれもが自らの決定に基づき、住み慣れた地域で生涯にわたり安心して暮らしていけるまち
- 2 だれもが地域社会の中で個性を生かしつつ、持てる能力を最大限引き出し、社会の構成員として自立して生活できるまち
- 3 だれもが障がいの有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し支え合いながら共生できるまち